（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジまなびや			
○保護者評価実施期間	R7年　３月　１日	～	R7年　３月　１５日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29	（回答者数）	8
○従業者評価実施期間	R7年　３月　１日	～	R7年　３月　１５日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年　３月　２２日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・管理者、児童発達管理責任者、指導員は元学校教諭、保育士でそれぞれの特別支援に対する知識や経験を生かしたコミュニケーションを個人･集団で連携している。	・スタッフでパソコン教室、実験教室、おやつ作り教室等を行い子どもたちの生活体験の中でコミュニケーション能力を高める。	・それぞれの力に合わせた、パソコン教室での支援やプログラミングをさらに取り組む機会を増やす。 コミュニケーション力を伸ばすため短い時間を通じて行えるゲーム・運動などを工夫して行う。
2	・適切な支援の提供には概ね発達年齢に応じた生活能力を向上させ、社会とのコミュニケーションを十分にとれる総合的なプログラムで個々の子どもの実態に合わせている。	・教材教具作りを、学年、個人の特性に応じて作成する。また、学校や市福祉との連携（ケース会議）を行う。	・更に個人の力を高めるよう個人の特性に応じたプログラムを提供する。
3	・地域の人材、社会資源を活用し、利用者の生活体験を豊かにできる。	・地域の講師によるバルーンアート、パン作り教室、イチゴ狩り、米･野菜作り、ふれあい食堂、天理大学とのホースセラピー、山辺の道環境保護団体との共同作業を行う。	・それぞれの地域社会資源の活用を深め、大学との運動機能向上プログラムを考える。 活動の中に地域の中にある、駅・公園・商店街を利用し生活体験を深める取り組みを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・アセスメントについて等、児童発達管理責任者、指導員、保育士の情報共有が不十分である。 ・職員研修が少ない。	・日々の業務が多忙なためミーティングの時間がとりにくい。 ・年度初めの年間計画の位置付けが不十分である。	・全体のミーティングやスモールサイズのミーティングをとる時間を工夫している。 ・業務分担を見直す。 年度初めに必要な研修内容を探り、定期的に研修を行う。 ・担当者を増やす。
2	・遊びの空間が狭い。	・一般住宅件店舗であるために、支援のできる場所としてたくさんのちいさな部屋や中庭に砂場等があるが、大きな部屋がない。	・近くの公園が3か所あるので、空間の必要な大きな遊びについては、その場所で行えるようなプログラムを考える。
3	・モニタリング以外での保護者との面談の機会が少ない。	・就労されている保護者が多いので面談希望者のみになってしまう。	・面談ウイークのように全体に面談できる時す期を伝えて希望者を増やす。